

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(131号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

信仰：あなたの誇りはどこから？

- 1月半ばになり、寒さが一段と厳しくなったと感じたら翌朝には石巻でも今年最初の積雪の日となりました。それと共に地方紙にも小中学校でのインフルエンザによる学級閉鎖が日毎に増えています。
- 昨年暮れ前にインフルエンザの予防注射をして感染に備えていました。しかし、高齢になり免疫力も下がっているせい、寒い中で夕刊配達をしている次男が発熱し感染と診断された翌日から、私も微熱が続き、初めてインフルエンザに罹患していると言われ、月半ばより2週間余りベッドで過ごす羽目になってしまいました
- 皆さんは、守られて過ごされているでしょうか。
そんなわけで、今月の月報発送は大分遅れ、皆さんにご心配をかけてしまいました。
- 微熱が続き、食欲もなく、体全体が脱力感に襲われ、本を読むことも辛い状態でした。そんな中で、睡魔に襲われて何回も同じ箇所を聴きながら、iPhoneでハーベストタイムの中川健一師による「ローマ人への手紙」公開メッセージを全巻聴き通すことができました。
- 体系的にはキリスト論、終末論などは欠けているが、最初の組織神学書とも言われているこのローマ人への手紙は、ルターの宗教改革に火を付け、多くの宗教家に聖書の真理への目を開かせました。組織的に読んでこなかった私も改めて自分の信仰の意味を確認させて頂きました。
- 今、社会が豊かになり、ものが溢れ、自分の必要なものが簡単に入手出来るようになって、自分の力でそれを獲得できるその獲得力が人間の最大の目的、誉れになってきているように思います。その結果、社会的な地位や資産的な優位が人間の誉れの第一のものとなってきています。
- ユダヤ人の誇りは、自分たちは神に選ばれた民であり、アブラハムの子孫であるが故に、律法を守っている限りメシア到来の時に、神の民として救われ、裁かれることもはなく、当然として神の国に入れるというものでした。
- しかし、パウロはそのような「行いの原理」によるユダヤ人の誇りも、「信仰による神の義」でしか実際にはもたらされないと言ったのです。
- こんな心の醜く、自己中心で自分勝手な思いで生きてきた私を救うために福音を啓示し、「イエス・キリストの十字架による贖い、死、復活」がこの自分のためになされたと感じる信仰さえも与えられて、神の子とされたのです。そこに「神の義」が実現し、その誉こそ恵みなのだとその真理を確認しました。
- そして、この働かない者に与えられているこの誉れがどんなに大きなことかを、ベッドの中で何回も感謝しています。寒い季節、皆さんの健康が守られますように。

■ 先月の多くの恵みから

- ① 次月の3/9に東松島Community Centerで、そして3/11の日には初めて女川のまちなか交流館で「3.11東日本大震災追悼記念会」が持たれます。1/10の会議で大詰めの全体の運営の相談をしました。幾つかの課題があります。その最終会議が2/7に持たれましたが、阿部はインフルエンザのために出席出来ませんでした。準備が充分に行われますようにお祈り下さい。
- ② 1/4の午後2:30より日本基督教団石巻栄光教会で、石巻で初めて合同新年礼拝を持つことができました。石巻栄光教会・石巻オアシス教会・石巻祈りの家の会員が集い一緒に主を崇



謙遜と、主を恐れることの報いは、富と誉れといのちである。
(箴言22/4)

め、主を賛美する礼拝となりました。川上直哉師からローマ書10/9-13節を通して、「主を信じる者は誰でも救われている」との恵みのメッセージをいただきました。その後、スカイプを通と福島聖書教会の岸田誠一郎師から「原子力被災地からの証」と題して、先生が被災後に福島に召され、この働きを始められた経緯と現在の課題のお話を頂きました。集会後、茶菓を頂きながら3教会の会員が、共に同じ主にある交わりを楽しみました。巨理の熊田牧師も出席下さいました。

- ③ 1/2に、仙台の荒井キリスト教会の阿部ご夫妻が、昨年に引き続き訪問下さり、この1年の恵みを分かち合い、祈りの時を持つことができました。
- ④ 1/11 Turanno Japanよりディポーションガイド10冊と特製カレンダー、童話3冊セット2セットを献品頂きました。
- ⑤ 1/30に石巻オアシス教会にて市内合同の学び会川上直哉師による「ゆるしについて」に10回目の学び会が持たれ、今回で東北学院大の佐々木勝彦師の「ゆるしについて」、ラッシュ著の「人はなぜ「憎む」のか」の講義が終わりました。
- ⑥ 安曇野の小林和子さんの妹二平幸子さんが末期癌で危険な状態が続いています。信仰が与えられて主の平安に導かれるように、緊急の継続した祈りをお願いします。
- ⑦ 1月も、手紙、メールでの励まし、支援活動献金によって小さな群の活動を支えていただいて心より感謝いたします。

■ 今月も以下の課題を祈って頂けるようにお願いします

- ① 今野かつ子さ/Dei姉/新井李恵子姉の治療のために。② 2/14の鈴木手以師の脳手術のために。③ 3.11東日本大震災追悼記念会の祝福のために ④ 地域から真剣に神を求める方が起こされるように。⑤ 3/10に礼拝奉仕下さる竹下力師のために。

群の定期集会

・礼拝 (毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会 (毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time (第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸 (第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援 (地域の子どもの要望に応じて)	

信仰を詠う

2月 「楽しい手芸の会」 クリスマス

この場所は優しいと微笑し紡ぐ人
聖誕ローソク五本目灯る

自分だけの絶品作品持ち集う
きよしこの夜 歌いて捧ぐ

やれること、ひとつでもあるは お恵みと
がくつとなる 膝 なだめて明日へ



阿部 八重子

只今、会員11名、月2回教会に集い、頭、手、口を動かす。最年長86才、平均年齢?才の皆さん、一年間の自分だけの作品を持ち寄り7回目のクリスマス会を持ちました

● <祈りの要請> 3.11東日本大震災追悼記念会のために、地域から真剣に求道する人が与えられるようにお祈りください。



新年最初の礼拝 Dean師家族も

1/27-28、石巻も積雪と寒さが、これからドカ雪が来るかも



1/1 2019年石巻3教会合同新年礼拝 福島の岸田師がスカイプで講演 礼拝後に3教会の会員が同じ主を中心に交わ



ローマ書講解テープ起こし

春を待つ実生

新年度最初の「聖書を読む会」

1/14仙台の阿部イサ姉訪問

第8回 **愛と希望の**
大震災を覚える追悼記念会
コンサート

この日、「愛と希望」を奏でる音楽とともに追悼のひと時を。悲しみを乗り越え、繋がり合い、助けし支え合いながら歩めるように。

2019
3.9 土

(出演) 久米小百合 向日かおり

開場 13:30
14:00~15:30

会場 東松島市 コミュニティセンター
宮城県東松島市矢本字大瀬1-1

主催：宮城三陸 3.11 東日本大震災追悼記念会実行委員会
共催：東松島・石巻・女川ミニストリーネットワーク
後援：東松島市、東松島市教育委員会、東松島市芸術文化振興会
三陸中央連絡センター（岩手県）、石巻市新聞掲載社、ラジオ石巻 FM76.4MHz
宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会ホームページ
https://myyag311ku3011.jimdo.com/

お問い合わせ：080-3304-1351(中継)

入場無料

差し迫ってきた3.11日東日本大震災追悼記念会のために祈り！

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在り

1月2日に、娘が奉仕させて頂いている仙台の荒井キリスト教会の阿部ご夫妻が昨年に引き続き訪問下さり、主にある楽しい交わりをさせて頂きました。御主人が大変な闘病しながら働いておられる中で、夫妻は主の恵みに固く立って信仰生活を送られています。帰りに「読んで頂ければ」とこの証しを頂きました。

日常生活の中での出会いを通して神の導きと相手の心に寄り添うその生き方に感動して、お許しを得て、皆さんともその恵みを分かちあい、主を賛美したいと思います。

信仰の歩みの中で

見えない道の先に (その1)

仙台荒井キリスト教会 阿部夕子

『さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです。』 (ピリピ1章12節)

私は先日の3月の中旬にとっても貴重な体験をさせてもらいました。そしてその体験を通して【神様と自分との関係】について、気付かされたことを分かち合いたと思います。

私は仕事の通勤にいつもバスを利用しています。その日も仕事が終わって、いつもの時間のバスに乗りました。そのバスの中に杖を持っている女性が座っていることに気が付きました。何気なく見ていると、その方は目が不自由な様子でした。付き添いをされている方もなくてひとりでした。『ひとりなんだ。』と考えていた時に、ふと以前、明美姉妹が打ち合ってくれた【同行介助】の話を思い出しました。それは、全盲の方の外出に付添って、自分が見えているものを見えない方に言葉で伝えながら安全に配慮しつつ同行して歩いて行くことを話してくれたことが思い出されました。

そんなことをボンヤリ思っているうちに私が降りるバス停に着いたので降りようと立つと、その眼の不自由な女性も同じバス停で降りたのです。私はこのバス停をいつも利用していますが、その女性を見たのは初めてでした。その方は迎えの人もなく、横断歩道のない道を渡ろうとしていたので、思わず声を掛



け一緒に道路を渡ってから、『家は近いのですか。』と聞くと『この先のライオンズマンションなんです。』との答えが。『私のアパートの隣じゃん。』と心の声を聞く間もなく『私、隣のアパートに住んでいるんですよ。それじゃ一緒に帰りましょう。』と言っている自分がいました。

明美姉妹が話してくれた同行介助の話を思い返しなが、その方と会話をしつつゆっくりと二人で歩き出しました。『もしかして私、今すごい体験をしているんだ。』と思いつつながら道々話をしていると、その方が『週に3回、透析に通っているんです。』と・・・私が『宏人会（こうじんかい）ですか。』と聞くとその方は『そう、木町の宏人会ね。』という答え。私の夫の母も透析で宏会に通っていることを話し『こんなこともあるんだ。』とお互い驚きあいながら歩きつ、マンションの入り口でさよならをしました。

別れた後に、自分が名乗ることも、その女性の名前を聞くこともすっかり忘れていたことに気づきましたが、姉妹との交わりを通して聞いたことで、自分が実際に行動を取れたことの喜びと感謝で心が満たされました。

その後、家に着き部屋でひとりこの体験の喜びに浸っていた時に、ふと気付いたのですが、全盲の方が自分の全く知らない、しかも名前すら名乗らない相手に『一緒に帰りましょう。』と言われ、その相手を信頼して道を歩いて行くなんて、とても勇気がいることであり、すごいことなんじゃないのかと思いました。『偶然ですね。うち隣なんです。』という言葉だけを信じて相手に自分の身を委ねるって・・・

【自分は見えないのだから頼るしか仕方ないことだろうか？ 不安や不信感を持つことはなかったのだろうか。】 そう考えると自分がしてあげられたことよりも、自分を信頼して下さったことの方が大きなことだと思われました。そしてその思いと同時に、自分の心の中に、ある思いが湧きました。

聖書でイエス様が語られたことです。イエス様が盲人を癒された時、「見えない者が見えるように、そして見えると言っている者は見えていない。」(ヨハネの福音書9/4)と言われた箇所があり、メッセージを通して聞いたことがあります。私自身も『本当にそうだなあ・・・』とその都度、思われています。

(次号に続く)